

第 3 章:もしも自分が 英語の教師だったら、どうする？

中学英語の学習目的は、英語を介して「文化」と「言語」への興味を持たせ日本人としての自分を意識し、日本語力の向上に役立たせることだと思う。英語学習に膨大な時間を要し多くの生徒が自分の持つ才能や能力を伸ばす機会から閉めだされているのはおかしい。美術や音楽と同じように学べると良い。

日本人は何故、英語が苦手なのか。モノの観かたや考え方の違いから発して日本語と英語の言語構造が違いすぎることにある。彼らは何故、そのような言い方をするのかを先ず知るべきである。闇雲に日本語で処理するやり方だけを教えていたのでは英語嫌いになるのは当然か。誰もが使える「AI 翻訳」の進歩で英語の学習法は変わる。国際化の言語は第二母語としての論理的「平明日本語」が道具となる。

I、壁は、言語構造の違い

日本での英語教育の最大の問題は、英文和訳という「学習」を強いているところにあると思われる。この作業は、英語文章を、日本語処理装置(日本語オペレーティングシステム OS)にかけ、日本語処理手順で英語文章を「解体」し、日本語順序に並べ直して、日本語文章として表現することにある。

コンピューター風に言えば、日本語OSでは、手順が違うので、処理できないことになる。処理不能の情報が入ってきたときの反応として、最も自然なのは、拒絶反応である。つまり、英語を言語として受け入れ処理することを、玄関口で締め出すという対応になっている。

日本語処理の頭で英語に接している場合、既にそれは言語としての英語ではなくなり、解剖対象の物体のようなものとなっている。英文和訳の勉強は、英語の

教科というより、むしろ国語の教科というべき状態にある。(引用:篠原語録20選)

生誕100年司馬遼太郎の現在地

司馬遼太郎インタビュー文科勲章受章発表の夜
朝日新聞社出版 2023年4月10日発行

この書籍の中で、司馬遼太郎さんが大阪外語大学で、モンゴル語を選んだ理由は、モンゴル語と日本語は言語構造が似ているからだと言われている。なるほど、モンゴル出身のお相撲さんが日本語を流暢に話せる理由が分かった。司馬遼太郎さんは、日本語と英語の文章構造が違いすぎるのが日本人の英語苦手を生みだしていること、そして日本の子供達への英語教育の在り方について心配されていた。

原文引用:

『日本人がモンゴル語をやると言うことは、フランス人が英語やドイツ語をやると言うことなんですね。(中略)ところが日本の少年は全然言語構造が違う英語をやったり、中国語を習ったりしています。これはもう毎日逆立ちをしているようなものです。(中略)少年期に全く構造の違う英語を習わせて、生涯の後々まで苦になっている』。



Ⅱ、受験の為だけの英語学習を変えたい

1、日本人は、なぜ英語が苦手なのか

1)、人は言語(母国語)で考えるので、観方や考え方の違いは、処理する順序に現れる。英語と日本語の順序が違うことは、日本語処理手順にはそのままでは乗らないことになる。英語と取り組む第一歩は、何よりも、日本語と英語では、処理の手順が異なるという事実への認識におかなければならない。しかし、この認識は果たして行われてきたのか甚だ疑問である。

2)、異なる処理手順でモノを考えようとすることは、至難の業であり、頭脳に多大の負荷を掛けることになる。その作業は明らかに苦痛であり、とりわけ、なぜ異なるのかという理解無しに、ただ闇雲に英語を覚えることを強制されれば、その苦痛はさらに増えるだけである。コンピューター風に言えば、日本語オペレーションシステム(OS)では、手順が違うので、処理できないことになる。

3)、言語として違いすぎる。この違いに正面から取り組み、学習の解決策を図るのではなく、なぜ英語を学ぶのか、という目的を明らかにしないまま、暗記型の英語学習を押し付けている。それは英語を日本語で処理するやり方で、これまでの学校での英語教育である。これでは、大半の生徒達が英語嫌いになるのは当然のことである。

2、英語を通して言語への興味を持たせ、日本語力の向上に役立たせる

英語が中学校での義務教育で必要と言うならば、その目的は、英語という存在を通して言語への興味を持たせ、日本語力の向上に役立てることにあると思う。

日本語処理手順の上でいくら英語を解剖しても、言語としての英語が身に付かないことは既に述べた。同時に、英単語とそれに相応する日本語単語のデータベースを頭の中にいくら増やしても、つながりを表現できなければ、それはまだ言語にはならない。

それでは、日本の学校での英語教育は、生徒・学生にいったい何を学ばせ、身につけさせようとしているのか、という素朴な疑問を持っている。

アレルギーを起こさせるため？ 処理手順が大きく異なる言語を学ぶことは、大変なこ

とである。その上に、文化としての英語を押し付けられれば、先ず大半の人はアレルギーが生じるのは当然である。イギリスや米国の文化が、外国人に分かるわけもなく、発音が同じようにできるわけもない。生徒・学生全員が「英文学者」になることを目指しているわけでもない。何で、文化に深く根差した慣用的な言い回し(イディオム)などを教室で勉強しなければならないのか、英語を嫌いにさせるための嫌がらせかと疑いたくなる。

英語には、「文化英語」と「文明英語」がある。一つは、いうまでもなく、英語を母国語としている人々が使う文化にねざした英語(文化英語)。もう一つは、母国語を異にする人々の間で、コミュニケーションを取るための手段として使うオープン英語、つまり「文明英語」である。例えば技術や社会システム等は、世界共通の普遍性を持つ文明と言える。これらを英語で表現することの方が付き合いやすいと思う。日本の英語教育は、そのどちらを習得させようとしているのかが分からない。

中学校で英語教育が必要というのなら先ず、「文化と言語」について興味を持たせながら、例えば「水は高いところから低いところへ流れる」という世界共通の「文明言語」で英語を学習するのが効果的だと思う。

例えば「理科」は自然科学の分野であり、この分野は文化としての言語の影響を最も受けにくい学科である。いっそ理科を英語で学んでみてはどうだろうか。自然科学の殆どは欧米から学んだやり方だから英語で学んでも日本人の「大和魂」に悪い影響は与えないと思われる。実際、理科や化学は英語で学んだ方がずっとスッキリする。結果として日本語能力を向上させる目的が果たせると思う。

日本語は英語と比べると劣性なので国語を英語に変える？外国人と道で会ったら「ハロー」と言えるようにする？海外でハンドバックのお買い物ができるようにする？米国に移住できるようにする？教養を高めるため、少しは英語が分かるようにする？いずれにせよ、英語教育の意図は、どう考えても明らかではない。ルイビトンのお買い物ができるようになりたい人には、街の英会話教室が用意されている。

将来、国際化した社会の中で、その前線で仕事をしたい学生には、先ず、コミュニケーションのツールとして、国際共通語としての英語処理能力を身に付ける事の必要性を自覚させることが先決である。英米の文化、社会、文学等に専門的興味がある者は、大学で専門的に学べば良い。通訳やガイドを希望する学生は留学すればよい。

Ⅲ、「文化」と「言語」について歴史を学ぶことからスタートする

1, 先ずは、日本語の奥深さを認識する

日本語は、数千年の歴史をかけて磨き上げてきた優美な言語であり、西欧の言語がローマ文明の力を借りて(ラテン語)その洗練度を上げたように、日本語も中国文明の力を借りて、つまり多くの言葉と漢字という文字を輸入してその洗練度を上げてきた。

しかし、西欧の言語のように、狭い地域で互いに刺激しあいながら磨いてきたのとは違い、かつては中国からの輸入、幕末以降は英蘭独仏語の輸入以外は、日本語は自分達だけで磨いて来なければならなかった苦労もあった。結果として、日本語は世界の中で特異ではあるが、上質の叙情的な表現を持ち、論理的表現も可能な極めて有用な言語として、その地歩を保持している。世界の知的財産の一つと言える。

文化が言語を生み、言語が文化を育てるわけだから、日本全体として、日本語は磨き続けなければならない。また一人一人にとっても、思考と言語が互いに深く関連しているものである限り、日本語を扱う能力の向上は必須の課題である。

その意味で、思考力と言語力がまだ発展途上の幼児や小学生の時から外国語を学ばせることは興味のある試みといえるが、もろ手を挙げて賛成できない。個々の親が何を考えるか、それは自由であるが、国の施策として出すとなると、現状の教え方では暴挙というか無謀というか無理がある。また、英語やフランス語と比べると日本語は度が落ちるという人もいるようだが、本当にそういう人がいるなら、その人の「日本語能力知」を疑いたい。

2.柔軟な日本語の長所と短所を知ることによって英語が身近になる

英語習得に於いて日本人は、世界の中で最も不利な条件下にある。我々日本人が、どれほど不利な戦いを強いられているかは考えるだけでも憂鬱になるが、逃げるわけにはいかない。これは、共生と戦いだから、このツール(英語)の扱いが、できるだけ上手くなるように修得するしかない。

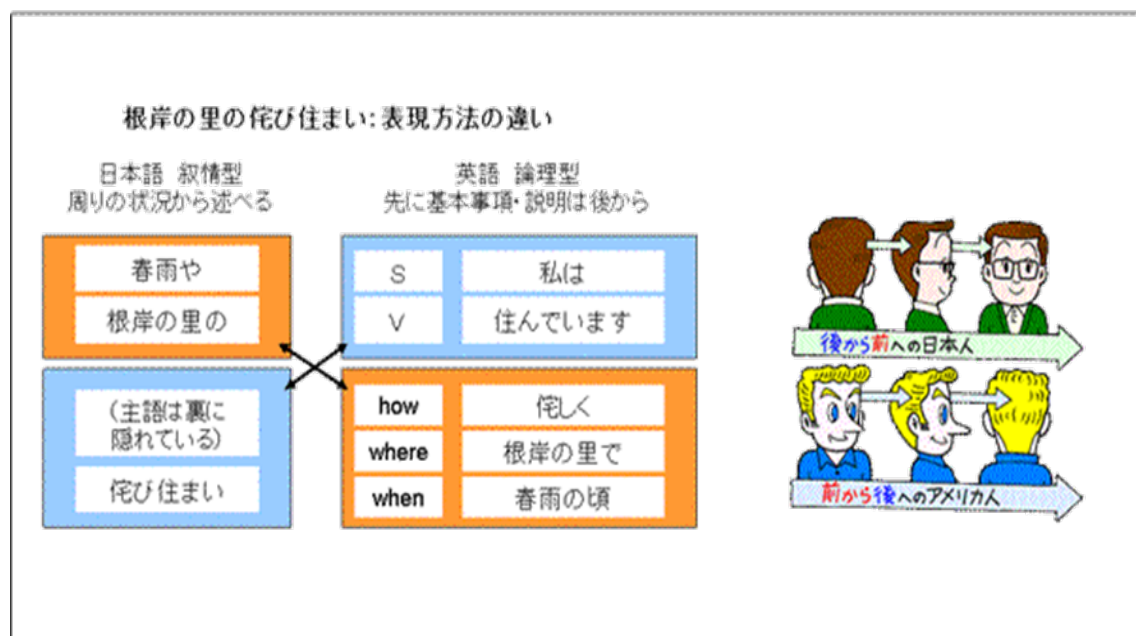
一方、日本語の構造上の柔軟性と漢字、ひらがな、カタカナ、そしてローマ字という便

利な道具のお蔭で、自然科学から哲学まで、世界の政治経済から芸能の出来事まで、日本語で情報を入手することができる。これが近代工業化成功の原動力となり、同時に、自分の都合のよいように世界の物事を受け止める「日本村」を作りだしているのかもしれない。

日本人は欧米から事物、概念、システム等を輸入して利用するとき、すべて「日本風」味付けをするという文化的習慣があり今も続いている。この習慣は、もちろん多くの面で利点として作用し、その結果、日本という存在の確証証明は保持されてきた。

一方では欠点も当然ある。その最たるものは、海外の思想、概念、制度、システムといったものを「日本流(自己流)」に理解し、それで理解したと思い込むところにある。生のまま、マナ板にのせて、その本質を分析してやろう、という挑戦の姿勢は出てこない。

表現方法の違いを知るだけでも上達する



3, 文化が言語を作り、言語が新しい文化を育てる

ある程度の同一的なモノの観方や考え方を共有している集団は、同じ文化を持っていると見なすことが可能である。そのモノの観方や考え方は、言語で表現される。同時に、人は言語でもって物事を考える。従って、文化と言語は極めて密接な関係があり、一つの文化を共有している集団は、母国語もほぼ共有していると見なすことができる。文化が言語を生み、言語が文化を育てると言われる所以がここにある。

モノを観る方式は、言語の構造に反映される。モノを考える順序は、そのまま言語の順序に反映される。

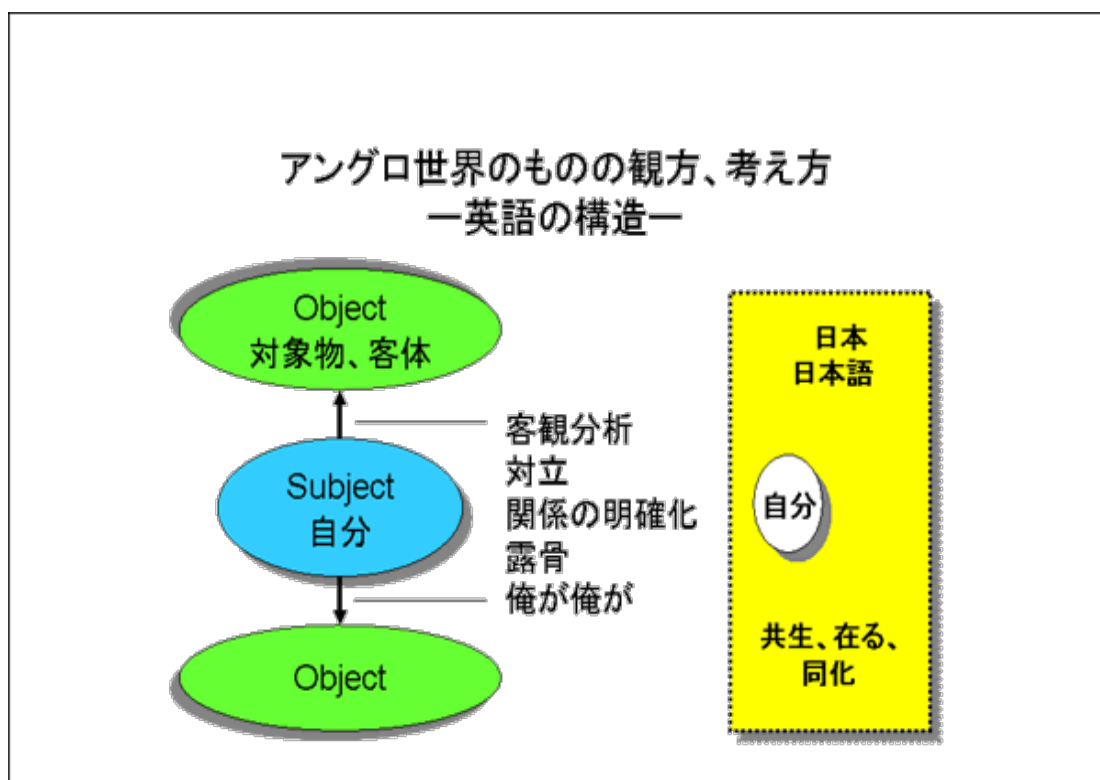
1, 単純化を恐れずに、西ヨーロッパの人々(*)の、モノの観方、考え方を纏めてみる。まず自分が何者であるかを、自然や他者との比較することで自己を確認する。つまり自分が、ある環境の中で“何を、何のために”しているのかを絶えず確認し続け、機会あるごとにそれを表明する図式となる。それは、他者と自己を対立する客体(Object)として、客観的に(objectively)観察し、分析し、評価し、報告される。(*):[西ヨーロッパからアメリカ大陸に移住した人々も当然この中に含まれる。](#)

ここから自然科学が生まれ発展する。また人間が構築した社会も同じように眺め、分析し、評価しようとする。これが社会科学へ繋がる。これらの基本姿勢から、自然や他者に関する報告を重視し、その情報収集に勤め、それを分析評価する作業(**インテリジェンス**)を重視し、そこへの働きかけを、戦略的計画の下に行うという形が出てくる。すべてが自己から発している。

2, 単純化を恐れずに、日本の人々の、モノの観方、考え方を纏めてみる。つまり自然・環境の中に溶け込んで存在している自己を確認し、その自然・環境の説明を付けて、自分の存在を「控え目」に表明する。つまり、自然を客観的に眺めることはせず、その中に溶け込み、自然と一体化する。当然ここからは、自然科学は生まれない。

人間以外の生物を含めて、自己と同列の、つまり対等の存在と認め、その相手との関係の中で自己の存在を確認する。従って自己表明は、相手の存在を意識し、調和を最優先してなされる。つまり、常に全体の中の自己という図式での確認であり、全体を語らずして自己を語ることは難しい。

以上のように、文化の違い、つまり、モノの観方や考え方の違いは、当然言語の違いに反映される。それは、言語の構造の違いと、表現の順序の違いとなって現れている。英語が論理表現に適している言語であるとすれば、日本語は詩歌の表現に適した、極めて叙情的な言語と言えるかもしれない。その曖昧さと余情が、色彩と造形の世界とあいまって、日本の美を作り上げてきた。外国の方が日本語を習得しようとするれば その曖昧さという障壁を克服することは難事業だろうな、と同情もしたくなる。



IV、英語が世界で使われる「国際言語」になった理由を知る

英語は、

- 1, 「物・事・考え」を分かり易く論理的に表現する、記述するのに適した言語である。
- 2, 構造的にしっかりした言語で、学習しやすい言語である。
- 3, 普遍性を持った言語で、翻訳ソフト(AI 翻訳)の支援が得られやすい言語である。

1, なぜ英語が、国際共通語として成り得たえたのか

19世紀に始まった科学技術、工業化、システム化の文明時代は、論理的で分かり易く誤解を生まない言語が必要であった。そのニーズに適した言語が英語であった。20世紀は、英語を母語とする英国と米国が、圧倒的な政治、経済、軍事力の優越を維持続けた世紀であった。

その結果「欧米式」のグローバル化が急速に進展した。グローバルなシステムを経営・運営するためには、そこで使われる言葉を、できるだけ一本化することが効率上必要であった。それが英語である。

その結果として、唯一の国際共通語としての英語の位置は、ますます強固になる一方である。西洋世界が長きに渡って世界をコントロールできた要因の一つに、この言語、つまり英語、欧州言語の存在を挙げることができる。

この論理的で構造的な言語を持っている強さでもって、西洋世界は自国内の経営だけでなく、植民地を経営する場合も、うまく収めてくることができた。植民地から独立した諸国が、今でも元の宗主国の言語を公用語としていることから、その言語による浸透力が高かったことが分かる。

中でも英語が「ナンバーワン言語」の位置を占めることができたのは、言語そのものが他の欧州言語と比べて構造や時制や人称が、更に「単純」であるということが、大いにその力となったと考えられる。

ともあれ自分たちの文化とは大きく異なる文化の下で、生きてきた世界の人々へ、こちらの考えを述べ、何とか合意を得ようとするならば、論理的に筋道立て、明快に表

現するしかないことは明らかである。

欧米人の思考(物の考え方、見方)が言語を生み、新しい文化を作り出してきた。言語が先か、文化が先かは、定かではないが思考と言語は一致している。そのことが米国の国家戦略の一つである「経済戦略」にも現れている。

ご承知のように英語は対立の図式で表せる文化の下にある言語である。英語で事実報告や考え方や分析された情報をやり取りする場合、この対立図式の基で、思考や分析、議論を行うことになる。世界の人々へ、世界の共通分野での「物・事・考え」を伝えようとするなら、論理的に筋道つけて説明しないと、理解を得られない。

日本人社会は「以心伝心」を期待した、争いを好まない言語で成り立っており、論理的に物事を考え議論することが苦手と言われている。しかし世界の中で、ビジネスをするには、面倒だけれど「**論理性**」を身につける必要がある。

日本語が国際言語には成りえない



これまでの「篠原レポート」I、II、III、IVを整理すると、

- (1) 英語は、物事や考えを論理的に表現するのに適した言語である。
- (2) 英語は、論理的に記述するのに適した言語である。
- (3) 英語は、構造的にしっかりした言語である。
- (4) 構造的であることは、表現の形式において自由度が少ないことである。
- (5) これは、外国語として学習しやすい言語、つまり、習う人の民族文化に影響されずに、頭でその法則を理解すれば学習の基本が得られるということになる。
- (6) 元来の英語には欠けていた人間の思索、技術、社会体制等を表現するための高度な単語をラテン語から借用してきて整えたので、完成度と普遍性をもっている言語である。
- (7) ということは、コンピューター(翻訳ソフト)にも易しい言語でもある。
- (8) 19世紀に始まった科学技術、工業化、システム化文明の時代は、論理的記述を必要とし、そのニーズに適した言語であった。
- (9) 同時にこの二十世紀は、英語を母語とする欧米が、圧倒的な政治、経済、軍事力の優越を維持し続けた世紀であった。この結果、米国式のグローバル化が急速に進展した。
- (10) グローバルなシステムを経営・運営するためには、そこで使われる言葉をできるだけ一本化することが効率上必要であった、それが英語である。

日本人はなぜ英語ができないのか 岩波新書 622 鈴木孝夫著作

1999年7月19日第一刷発行 2021年3月8日 第21刷発行

『インドやフィリピンの人々がそもそも英語を学ぶようになったのは、一口で言えばイギリスやアメリカといった宗主国の人間が、彼らを統治し搾取する際に、自分たちの意思が相手に伝わらなくては困るから、彼らに英語を学ばせたためです。要するにその宗主国の一方的な都合で英語を教えたのであって、支配される側の自発から出た額数ではありません』P100 引用

読み書きができると、現地民に知恵が付き、統治に差しさわりが出るという支配者側が恐れたからだと思う。何れにせよ結果として、国際共通語である英語の位置は、ますます強固になる。英語習得において、日本人は世界の中でもっとも不利な条件下にある。我々がどれほど不利な戦いを強いられているかは、考えるだけでも憂鬱になるほどであるが、まさか今更、鎖国をするわけにもいかず、逃げるわけにはいかない。これは「戦いと共生」だから、この言語(武器)の扱いができるだけ上手になるように修

得するしかない。

V、「物・事」を世界へ誤解なく伝える為の

「やさしい日本語」の必要性を知ってもらう

1.「文化日本語」だけでなく、第2母語として「文明日本語」を持つ

世界の人々を相手として意識したときに、誰にでもわかる**平明な表現**というよう なことを、われわれは意識してきたであろうか。そのための努力をしてきたであろうか、否である。世の中に溢れている日本語文章の特徴の一つは、文字が意味を持つ漢字に依存して、私が何を言いたいのか「お察し願います」というスタイルであり、受け手（読み手）も「およそこのような意味なのでしょう」とわかったつもりで収めてしまうところにある。

この相互関係の結果、文章の構造は極めて自由であり、設計図無しに家を建てているようなものである。「柔構造」といえば聞こえは良いが、各人がそれぞれ「自由気まま」に書いている文章と言える。これに反して、英語をはじめ欧州言語による文章は、論理的にしっかりと組み上げる**「構造的な文章」**といえる。

余談になるが、ご承知のように漢字は言うまでもなく言語を表記する記号であると同時に、一つの文字自体が意味 を表現している。因みに西洋のアルファベットは単に記号であり、意味を伝えるには、その記号をいくつか組み合わせて「単語」に仕立てあげる必要がある。企業内の報告書から官庁の通達文書まで、あらゆるところで曖昧な日本語文章が溢れている一つの原因は、このなんとなく**「感じ」で分る「漢字」**を使用しているところにある。

政府や自治体は、災害が起きた時、外国人へどのような情報を、どうやって伝えるべきか、言葉や習慣の壁を乗り越えて来場者の安全と命を守ることは極めて重い課題である。**「いま何が起きているのか」、「どう対処すべきなのか」**、つまり避難方法（逃げる方法）や非難場所（逃げる場所）への誘導の方法を入念に準備しておかねばならない。そのためには、混乱、誤解が生じない分かりやすい情報（伝達）を発信することが重要となる。それが**「平明日本語」**即ち**「やさしい日本語」**である。

例えば「避難」、「消火」の漢語に”する”を付けると動詞になる。これは日本語の特長

(凄いところ)で、外国人が理解することは困難である。“避難するは、逃げる、消火するは、火を消す”であれば分かりやすい。このように日本語の「動詞」を見直すことで、一つの解決策が見えてくる。

2. 朝日新聞夕刊:「現場へ」で取り上げていた「やさしい日本語」

朝日新聞の夕刊「現場へ(2007/1-5)」に「やさしい日本語(刀祢館正明)」が掲載されていた。日本に住む外国人が増えれば、外国人にも分かりやすいように工夫をし、簡単にする日本語のことである。いろんな分野で「やさしい日本語」が構築されている様子を記事にしている。例えば「災害避難の呼びかけ」や「医療、介護の世界」など多岐に及ぶ。

余談だが中でも厄介なのが「お役所言葉」で、苦笑させられた。「税金を納める」を「税金を払う」には抵抗があるらしい。

「税金を納める」は、どのように英訳されるのか、それが知りたい。そこで英語の達人に教えを被った。彼の英翻訳は、Tax Payer(タックスペイヤー)である。その意味は「税金を払う人」。向きを変えれば「議員や行政官が最も丁寧に接しなければならない人」となる。

「税金を納める」と「税金を払う」の日本語の意味は微妙な違いがあるようだ。例えば「納められた税金」の使い道は、お上が勝手に決められる。「払った税金」の使い道は、払った人の意見を取り入れてくれそうである。ひょっとして、お役所が抵抗する理由は、こんなところにあるのかな？このように日本語の解釈は奥が深く、実に悩ましい。しかし英語訳すると、どのような意味になるのか「アレコレ」と考えると興味が尽きない。

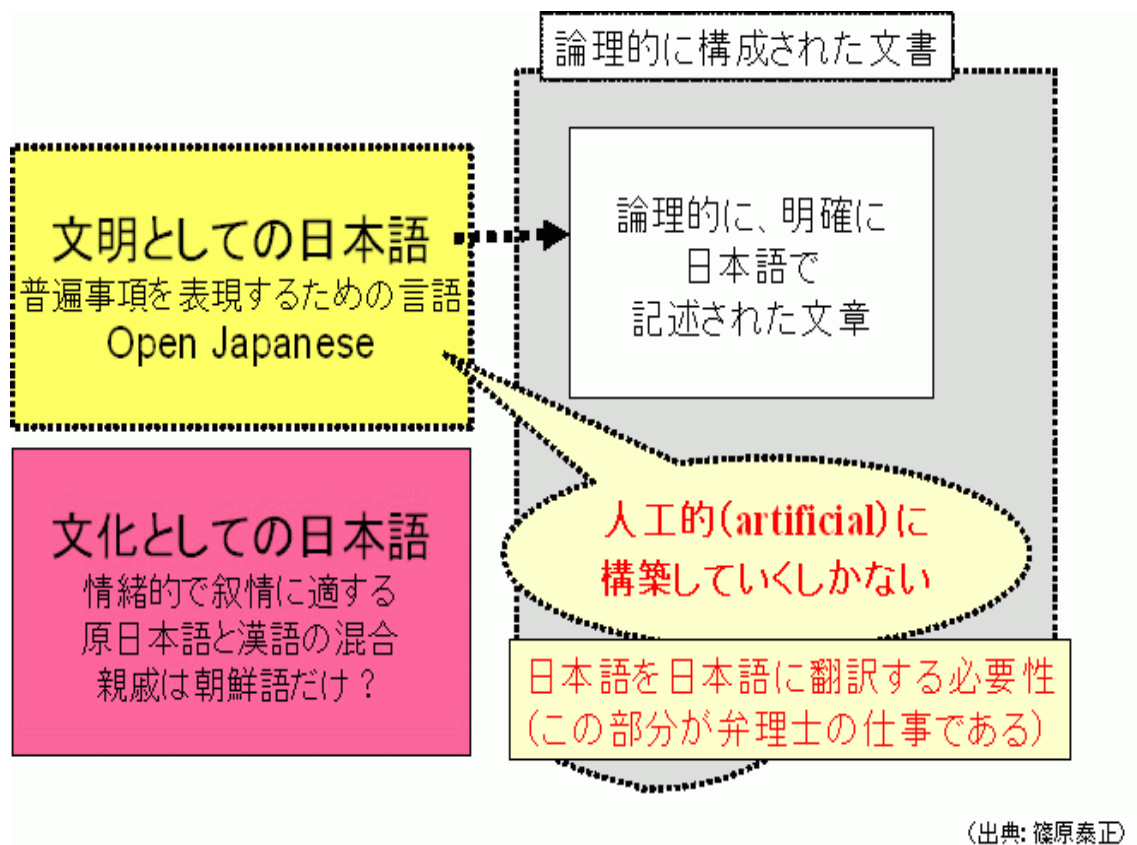
3.「私は悪い、私が悪い」の区別が難しい

当社へ入社(1992年)して間もなかった「中国人社員」が言ったことが印象に残っている。彼女が言うには、「私は悪い、私が悪い、の区別が出来ず困っている」とのことであつた。日本人は、この区別ができるが外国人にはとても難しい。

「私は、悪い」は、属性を表し、その人は悪い人である。「私が、悪い」は、ある出来事(事件)に関して、たまたま「私が、悪い」のであって時制の限定がある。そこで、彼女は、「が」と「は」をすっ飛ばして「私、悪くない！」と言うようにしたそうだ。否定文であ

れば「私は悪くない」これは通じる。しかし「私が悪くない」となれば日本人でも通じない、と。

外国人にとって日本語の何処が理解しにくいのか？こんなことをアレコレと考え、例を取り上げながら、日本語を見直す授業をゲーム感覚で行うと面白いと思う。要するに日本人は外国人に対して分かりやすく説明する努力が足りない。



VI、翻訳ソフトの支援が受けながら英語に慣れていく

【新聞情報】: 1. 対話型人工知能と人間どう違う

「英訳AIと人間どう違う」 朝日新聞 夕刊 2023/05/12

『対話型人工知能(Chat GPT)と人間との違いを、英訳を通じて学ぶと言う授業が立命館大学で始まった(中略)。一つが「自力」、もう一つが旧来のサービスを使った「機械翻訳」、そして「チャット GPT」を使った英作文』(原文引用)。

この記事の中で、英語の論文を書く時に楽をしたい、と思った大学院生が開発したツールが紹介されていた。

『もともと論文を日本語で書き、英訳するために機械翻訳を活用していたという。示された英文の意味やニュアンスが正しいのか再度機械翻訳で和訳し、意図した日本語になっているか確認する作業を繰り返していた。この手間を省こうと同じ画面で翻訳と逆翻訳ができるツールを開発』(原文引用)。承認番号: (23-2315)

1, 日本語から日本語への翻訳:「日⇄日」翻訳

たまに会う中学校時代の同窓会は楽しい。終わった人たち？の集まりは、現況報告と旅行話から始まる。行き着くところ健康談義で場が盛り上がる。耳が遠くなったので都合の悪い話は聞こえない、目が悪くなったので先(行く末)が見えない、物忘れが酷くなったので”呆けるが勝ち”といった類の話は、笑い飛ばして楽しめる。

私の旅行話は、長春・瀋陽・大連への旅行(2017/6 月)である。カミさんは、この旅行に備えて「日⇄中」翻訳ソフトをiPhoneに入れたが、いつもの調子で「コテコテ日本語」を入力して変換。しかし意味不明で伝わらない。“この翻訳ソフトは、お馬鹿さんで使えない”と、不機嫌。そこで私が、どんな日本語を入力したのかを確認。文章を作り直して再入力。相手は”解ります”と嬉しそう。”翻訳ソフトは、やはり賢いわね”とカミさんの機嫌が、コロッと良くなった。といった、たわいのない話である。

S君は、私の話を聞いて、いちいち頷いてくれる。彼の娘さんは、アメリカ人と結婚しており、アメリカで暮らしている。娘さん家族との近況報告はメールを使って、英語でや

り取りしている。今ではコミュニケーションが上手く取れるようになった、と嬉しそう。彼は、英語が苦手であることを吹聴していた筈だが、それが、なぜ？

彼の説明によると、まず自分の日本語を①の翻訳ソフト(*)で英語へ翻訳し、その英文をコピーして、②の翻訳ソフト(*)にかけて日本語へ翻訳する。そうすると変な日本語がでてくるので、日本語を修正し、再度①の翻訳ソフトを使う。

このように2つの google 翻訳ソフトを行ったり来たりしてやっている。このやり方で翻訳した英文を英語の達人に見せたことがある。家族へ出す英文にしては「固すぎる」と言われた。しかし一番大事なことは、相手に伝わることであるから、と合格を貰った、と。そして彼は、私に言う。「やさしい日本語」であれば、翻訳ソフトの支援が受けられるのではないか、と。

(*)①の翻訳ソフトは、アイフォンに常駐している翻訳ソフト:(ネット環境が無くても使える。過去に翻訳した履歴が残る、自分だけの「辞書(AI)」を構築できる)。(*)②の翻訳ソフトは、ネット上で翻訳する google 翻訳ソフト:(ネット環境が無いと使えない)

2, 世界の人々とコミュニケーションができる「オープンイングリッシュ」

日本が、あるいは日本人が世界から共感を得るためには、まず、世界の人々とコミュニケーションができる、「**開かれた日本語**(やさしい日本語)」、すなわち、第二母語としての「文明日本語」を英訳した「**オープンイングリッシュ**」を「身につけることが早道と考える。そのあとは、日本文化に根ざした日本語が武器となる。日本文化に根ざした日本語は、共生(自然や人間と)の精神と相手を思いやる優しさが根底にある。日本人としてのアイデンティティを見失うことなく対峙していけば、世界の人々から日本が、あるいは日本人が信頼され、尊敬されるに違いない。

VII、英文構造を知れば読めるようになる、論理力も身につく

脳から作る！！最強の英語勉強法

AERA

Asahi Shinbun Extra Report and Analysis

2013.7/31 Vol.36 No.34

2023 Asahi Shinbun Publication Inc

【アエラ】とはラテン語で「時代」を意味します

『得意なフレーズは I can't Speak English。中高大と英語教育を受けてきたのに、英語が苦手だ。でも、時代は進んだ。大ヒット本もAIもあるし、私も話せるようになっていはず。そんな皆さんのために、目からウロコの勉強方法を探してきました！（編集部 小長光哲郎）』原文引用

私は5月にディズニーランドに初めて行きました

私、行きました。ディズニーランドへ。初めて。5月に。

I went to Disneyland / for the first time / in May (原文引用)

私は一昨日、母のための花を買いました

私、買いました。花を。母のための。一昨日行きました。

I bought flowers for my mother the day before yesterday (原文引用)

(*) 引用承認番号: (23-2315) 朝日新聞出版、朝日新聞社

◆ いずれ(赤字、黒字)の和訳文であっても正解とする。つまり○をつけて欲しい。

スタンフォード大学計算機科学科

Try to make sentences comprehensible from left to right

米国の大学では、徹底した指導によって

結論・判断が先行(主節)

具体的説明は後続(従節)

という学術文体を、学生に習得させている

具体的な事柄を概括する語、または上位の概念を現す語を用いて概念を先に述べ、次に具体的な事柄を記述する。こうすると左から右へと文章の流れに沿って書き手の認識内容を、読者が理解しやすい。TEX の開発で有名な Knuth(スタンフォード大学)は、“Mathematical Writing”のなかで、学習者の数学論文を、添削例を多数表示して、語っています。

このように米国の大学では徹底した指導によって、結論判断が先行(主節)、具体的な説明は後続(従節)という論理的な学術文体を修得させている。論理的思考でもって文書化することがグローバル社会では重要なことであること教えるべきと思う。



1. 英語文書を読むに必要な英文構造「5 文型」と論理性

英語文章は基本的には下記の 5 パターンしかなく、これらの 5 つのパターンのことを「英語 5 文型」と呼んでいる。[\(*\)この「英語 5 文型」に関する詳細説明や学び方等については、ネット上でたくさん公開されている。](#)

『英語 5 文型』

- 第 1 文型: S + V (主語 + 動詞)
- 第 2 文型: S + V + C (主語 + 動詞 + 補語)
- 第 3 文型: S + V + O (主語 + 動詞 + 目的語)
- 第 4 文型: S + V + O + O (主語 + 動詞 + 目的語 + 目的語)
- 第 5 文型: S + V + O + C (主語 + 動詞 + 目的語 + 補語)

英語を読むという作業の第一は、英語文章の構造を理解するところから始まる。構造を静的に把握し、自分で表現する時には構造的に構築するように心がける。

英文の構造に馴れる

- | | | |
|----------------|-------|----------|
| 1. <u>大まかに</u> | 述べてから | 詳しく説明 |
| 2. <u>抽象的に</u> | 述べてから | 具体的説明 |
| 3. <u>結論を</u> | 述べてから | 理由/背景を説明 |
| 4. <u>主唱を</u> | してから | 理由/背景を説明 |
| 5. <u>事実を</u> | 述べてから | 状況/理由を説明 |

文章の分解・組み立て

5W1Hを常に意識する

概念、事実の論理関係を明快に記述すること

3種の表現

誰は誰である
誰は何している
誰は誰に何している

+

いつ
どこで
なぜ
どのように
誰と

「篠原英語塾」: マンガで学ぶ英文構造の概要へ訪問してください

<https://www.shinohara-eng.com/method/index.html>

はつめいくんのやり直し英語

なぜ自分は英語ができないのか、その原因をつきとめるため、英語の達人からカウンセラーを受けました。英文を受け入れない頭の構造をバラバラに分解して診断してもらったのです。ここではその診断書を紹介します。

<https://www.ipma-japan.org/pdf/20240111-01.pdf>

はつめいくんは、NHK テキスト 中学生の基礎英語レベル 1 を教材として、4 月から英語の勉強を始めることにした。目的は篠原メソッドと照らし合わせながら英語学習することで、英語苦手を克服できないか、の実験である。